

第2回美しい多摩川フォトコンテスト審査講評

- 日 時 平成22年1月20日
- 会 場 青梅信用金庫本店会議室
- 審査委員 委員長:佐藤 秀明(日本写真家協会会員)
委 員:瀬戸 豊彦(風景写真家)
委 員:榎戸 勝洋(多摩読売写真クラブ副会長)
- 応募作品 338点(125名)
内訳 ○多摩川の風景・人々部門…259点
○多摩川夢の桜街道 部門… 79点

(総評)

第1回目と比べると、応募総数が7割方アップ(+68.2%)しているほか、質もアップし、作品の題材もバラエティに富んでいて良かった。「みんなの多摩川」という趣旨を念頭において、今後も幅広い年齢層のアマチュア・カメラマンの写真が集まることを期待している。

(感想・意見)

- 「多摩川夢の桜街道」部門で最優秀賞を受賞した作品は、作者のハートが投影された素晴らしい写真だ。
- 「多摩川夢の桜街道」部門で最優秀賞を受賞した作品の撮影場所によく足を運ぶが、なかなか撮れない写真だ。
- 昨年と比べて、作品が7割も増えたことは、喜ばしいことだ。事務局の広報活動が功を奏したのだと思う。
- 年を追って作品が増えていくことは、素晴らしいことだ。
- スナップ写真の中にも力作が多かった。
- 昨年は少なかった紅葉の写真が多かった。私はどちらかというと、春や梅雨時の、新緑が目に見えるような写真が好きだが、何点か入選した。

○カヌーや御輿を担いでいる人物のスナップ写真が多数あったが、表情が生き生きしており、なかなか良かった。私は映像の仕事もいろいろやっているが、やらせだと顔の表情ですぐわかる。顔が多少引きつっている。

○桜が似合う公園としては、青梅の釜の淵公園、羽村の堰、立川の根川公園を推せんする。

○写真は社会に大きな影響を与えることがある。以前、裸祭りのポスターの掲示を拒否した先があったが、マスコミが飛びついて、逆に広報効果が上がったケースもあった。

○今後、3回目、4回目の開催を楽しみにしている。フォトコンテストを盛り上げていくために、撮影会をやってみるのも良いかもしれない。

○レンズの使い方や露出のかけ方が上手い、明らかにプロと見られる作品もあった。アマチュア・カメラマンの頑張りを期待したい。

(反省・課題)

○多摩川流域に暮らす人々の日常生活の写真(農作業など)がないのは、残念であり、今後の課題である。

○今回は、人が入っている写真を数多く見かけたが、人物の顔の向きが上手くない。肖像権の問題もあるので、仕方のないことかもしれないが、工夫の余地はある。

○多摩川上流域の写真だけではなく、都市を流れる多摩川中・下流域の写真がもっとあっても良いのではないかと。魚釣りや散歩の写真などでも良い。次回に期待したい。

○桜を撮影するカメラマンは、人物を入れたがらない傾向にあるが、人物を入れるのも良いと思う。

○フィルムカメラで桜の写真を撮るのは難しい。デジタルカメラだと、素人でも簡単に素晴らしい写真が撮れる。デジタルカメラで撮った写真は、色彩が派手なので、大きく伸ばせば審査員の目に止まる作品が出来る。

○写真は素晴らしいのに、プリンターやインクの質が悪くて損をしている作品があった。もう少しプリンターやインクの質を上げれば良くなるのではないかと。

○青梅住民の作品が少ないのは、残念である。青梅にも写真同好会の団体が5つもあるので、こうした団体にもっと働きかければ良いのではないかと。

(検討・要望)

○インターネット等の電子媒体を使えば、応募作品はもっと増えるのではないかと。

○応募者の年齢が60歳代中心なのは少し寂しい。多摩川流域には、30代の若い人も多く集う

ので、彼らも応募するように仕向けてほしい。

○自信のない写真でも、どんどん応募し、チャレンジしてほしい。

○高校の写真部などに声をかければ、意外に良い作品が集まるのではないか。

○多摩川はみんなの身近な川なので、もっとアピールして行ってほしい。

○新聞等の印刷媒体に、落選した写真の中から掲載し、フォトコンテストの宣伝に使ってみるのも良い。

○作品の展示場所として、多摩川上・中・下流域の自治体のホールを使わせてもらったらどうか。協力してくれるだろう。

○美しい多摩川フォトコンテストは良い企画なので、今後も長く続けて行ってほしい。

以 上